

陸前高田創生ふるさと会議主催

## 「明日の陸前高田を考えるワークショップ」

日時:2011年7月10日(日) 午後1時半から3時半

場所:陸前高田市竹駒地区定住促進センター(竹駒コミセン) 竹駒町字館44

参加者数:35名

内容:震災から4ヶ月. ワークショップ(参加者が話を聞くだけでなく、意見やアイデアを出し合う会議)を開催しました。

6月に東京4大学共同調査チームが実施した住民意向調査結果の報告(山本俊哉・明治大学教授)、「これからめざすまちの形」と題する話題提供(田代順孝・千葉大学名誉教授)の後、「住まいと子ども」分科会と「まちの骨格と産業」分科会で約1時間議論を重ねた後、それぞれの発表会を行ない、全体で意見交換しました。

以下、2つの分科会で出された意見(模造紙に書かれたものなど)を次のページに列挙します。いずれの分科会とも議論は広範に及びましたが、いくつか共通点が見られました。

「住まいと子ども」分科会では、人々の暮らしの再建という視点から議論を進めた。子どもの議論は時間の関係上深まりませんでしたが、

- ① 仮設など小さなものの積み重ねが重要であるが、様々な足かせがあり、規制緩和なしでは前に進めないこと。
- ② 陸前高田を構成する8町村がそれぞれ多様性のある再生方法を考える必要があるが、国道45号線の位置が重要であること。
- ③ 目指すべきまちの姿が打ち出されれば、それを目標・よりどころに次を考えられるという3点が強調されました。

「まちの骨格と産業」分科会では、陸前高田は多様な魅力を持つまちであるという基本認識のもと、

- ① 高田松原は砂浜とセットで松原として再生する必要があること
- ② 古川沼は掘にして桜並木をつくることが望ましいこと
- ③ 畑や山の緑を活かした再生計画が重要であり、モビリアや地域交流センターは次なる展開の拠点になりうることなどを指摘した上で、
- ④ 陸前高田の中心市街地は街道筋を生かし、コンパクトなまちと高台にいざというときにすぐ逃げられる構造にし、堤防強化や市街地のかさ上げを行って自然に流下する下水処理を考えるべきであること、
- ⑤ 国道45号の位置、防災機能、沿道利用など、市はまず防災の基本方針と仮設市街地形成の方針をはっきりと示すべきであることが強調されました。

## 「住まいとこども」分科会

### ■ 住まい

- ・ 住む場所に利便施設ができるかが心配。
- ・ 最初から安全なものを考える方が良い。
- ・ 低地よりも高台に住む人が多くなる⇒高台を中心まちが広がる→住まいは点在・分散するしかないか？

### ■ 低地

- ・ チリ地震などの経験から海側は農地が多かった。
- ・ 高田町はバイパスができて市街地が拡大して海側に住むようになった。
- ・ 高台は不便→高層でも良いのでは

### ■ 高台

- ・ 何かあった時に低地の部分はダメになる。
- ・ 高台の新規開発地でも各種施設が揃えば便利になる。
- ・ 非被災地の方が安全安心⇒まちづくりのベース
- ・ 防潮堤には限界がある。安全な場所に住むのが前提となるだろう。

### ■ まちなか

- ・ まちなかの飲み屋はコミュニティの場→今はやる場所がない。
- ・ 被災前と同じくらいの利便性が作れるか見えていない⇒住み続けられるのか見えてこない。
- ・ 新しいものができていない。小さいものでも1つつ積み重ねていくのが良いのではないか。

### ■ コミュニティ

- ・ 知っている人がいない土地では気持ちが弱

## 「まちの骨格と産業」分科会

### 多様な魅力を持つまち

#### ———海の魅力———

#### ■ 高田松原

- ・ 陸前高田と言えば松原。津波によって松がなくなったのは残念。
- ・ 高田松原は、砂浜とセットで認識されており（岩手の湘南という表現はみな知っている）、みな大切にしたいと思っている。
- ・ 希望の一本松は地元の方と、外部の方とで見方が違う。  
地元…一本だけではなく以前のように松でいっぱい状態に戻さないと意味がない。  
外部…一本を死なせないように努める。一本松の保存のためにお金をかける。

#### ■ 古川沼

- ・ どぶ川だった。近年、排水路の工事によって徐々にきれいになってきた。
- お堀にして桜並木をつくることも考えられる。

#### ■ 広田湾

- ・ なぜ高田に200万の船があるのか。水もきれいではない。
- ・ 沖での海釣りが観光客に喜ばれる。
- ・ 広田湾の水質改善も必要。

#### ———山の魅力———

- ・ 海と山をつなぐ気仙川。
- ・ 林業の再生も課題。
- ・ オートキャンプ場モビリア（小友町字瀬沢）、地域交流センター（矢作町生出）は次の展開可能性を有する拠点。地域交流センターを宿として利用できないか等。
- ・ 畑や山の緑を活かした再生計画。

くなる。

・地域のコミュニティは離れたくない思いが強い。

・「同じ場所に住みたい」では議論が進まなくなるおそれがある。

・集落全体でひとまとまりに住みたい。

#### ■年齢

・子どもや学校に関係のある人、ない人で考え方は異なる

・若い人たち→生活切りかえできる

・高齢の人たち→心のよりどころ、楽しさを守るべき

#### ■しごと

・お店を出す場所とそれを支えるもの(倉庫 etc)がない

・仮設店舗 2 年の制約が足かせになる⇒長期スパンで考えるべき。

・義捐金店舗には出ない(住宅には出るが)商店主の思いが生かせない。

・まとまって住んでいるのはビジネスのチャンスでもある。

・意欲のある若い人を支援するような職に関する手立てが必要。

・少しずつお金を稼ぐことを始めていきたい事業者もいる(千円、二千元から)。

・移動販売は成り立っていない(売上も少ない)ボランティア的。

#### ■生活の再建

・タイムリミットがある生活(仮設住宅)。

・やろうと思っても、法制度等の様々な足かせがあって進められない(時間が経っていくが)。

・時間が過ぎていくのは早い→タイムリミット(仮設住宅の居住期限)の中での再建のプロセスが見えない、作れない。

・山は涼しい、気持ちが良い、海岸線より高い。

#### ——中心市街地——

・城址からみえる景色は、高田のよさを伝えてくれる。街道を生かし、コンパクトなまちと高台にいざというときにすぐ逃げられる構造に。

・いままでポンプアップで下水処理していたが、費用もかかり効率的ではない。無害な、瓦礫を周辺市町村から高田に集めて、堤防強化や市街地のかさ上げを行って自然に流下する下水処理を考えるべき。集落下水道の考え方も大事。

・中心市街地における下水道の作り方が課題となってくる。

→そもそも海の近くに中心市街地を設けたのは間違いだったのか？

・陸前高田市内の主要市街地の住民を、他の市街地に移すのは人数的に無理なのではないか。

・元通りに戻すより、コンパクトにする方が現実的。

#### ——産 業——

・甘い考え方をもっている経営者が多いのではないか。

・米崎町や小友町には、観光農園などもあり農業クラスターの可能性をもつ。

・広田の漁業は、家族経営が多く、自宅に加工場をもっている家がほとんど。三陸ワカメは評判が良いが、その収穫時期は3-5月。残り9か月は、家族みないろいろな仕事をしながら生計をたててきた。

#### ——インフラ——

・国道45号をどこにどう位置づけるか(防

<p>・「お店ができるのか」「お店が来るのか」みんなわからないから不安がある</p> <p>・ アンケートでは以前から住んでいた所に戻りたいと言われているが、高台に残ってってしまうのではないか。</p> <p>■都市の構造</p> <p>・ 国道の位置は市街地形成上重要になる。</p> <p>・ 将来の都市の形(学校配置や統廃合、働く場所)を考えた次の生活の場づくり</p> <p>・ 目指すべきまちの姿が打ち出されればそれを目標・よりどころに次を考えられる。</p> <p>■地域性・多様性</p> <p>・ 8町村がまとまってできた市、陸前高田市で1つを考えるのは難しい</p> <p>・ それぞれの地域毎に考え方・状況が異なる</p> <p>・ 陸前高田はもともと別々でそれぞれの町村の集まり⇒多様性のある再生方法を</p>	<p>災機能, 沿道利用のさせ方)。そして両側から津波がきた広田半島の入口部分をどうするかも課題。</p> <p>→市は、まず防災の基本方針と(仮設)市街地をつくるかという方針を示すべきではないか？</p>
--	---

—————その他—————

- ・ 民間の建築活動は盛んになっている。
- ・ 津波の来なかった場所にスーパーや飲み屋などがつくられはじめている。
- ・ 気仙沼の瓦礫処理は、あまり進んでいない。先に、漁業の再開に力を入れているためと思われる。同様に、メディアにあまり流れていない町や集落が少なからずあるのではないかと思う。北上につくられるセンターは、支援が進んでいる地域地区の情報と、支援が不足している地域地区の情報を収集していくことも同時に求められると思う。

—————ワークショップ終了後地元参加者から寄せられた主な意見—————

- ・ 「多くの市民が陸前高田を出て行かなくてよかった」「多くの新規居住者が陸前高田に来てよかった」と思える市をめざす。8年後成人市民の50%、10年後には80%がそう思うことをめざす。
- ・ 2025年の住みよさランキング(東洋経済)が2010年の実績以上まで回復(持ち家率全国の自治体の中で2ケタ順位。住みよさ順位は200番以内)を目指す。
- ・ バイオマス、自然エネルギー活用等の施設のプレゼン等がなされているようであるが、20年50年先に廃墟設備と汚染だけ残るのでは話にならない。本件は急ぐことはない。
- ・ 広田、長部、高田の復興方法は異なって当たり前。ただし、時間的なズレは最小限に抑える。
- ・ 国の法律に基づく事業(防災集団移転促進事業、まちづくり交付金等)の活用。
- ・ JR大船渡線:矢作駅までは早急に復旧し、そこから大船渡まではルートを含めてじっくり検討。